

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立大南学園第七小学校 校長名：川口 周作

【経営理念】「学ぶ楽しさ」「人とかかわる楽しさ」「元気に育つ楽しさ」を目指して (1) 体験活動や交流活動を通して学びに向かう力を育む (2) 多様な考えを認め合う中で自分の考えや思いを伝える力を育む (3) 健康・体力を育む				評価		【学校運営協議会・会長 南谷 尚】 学校運営協議会（学校評価分） 第1回 令和6年 6月13日（木） 第2回 令和6年12月14日（土） 第3回 令和7年 2月27日（木）			
項目	計画・取組			自己評価（令和7年1月24日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
	確かな学力の向上	「児童が主体となる授業の工夫と改善」 ・どの授業でも「じっくり考える」「発表し交流する」場面を創り、言語活動の充実を図る。 ・「考える楽しさ」「わかる楽しさ」「できるようになる楽しさ」を感じさせ、学習習慣や基礎的な学力を身に付けさせる。	生活時程のチャレンジタイム（2校時後の15分間）において、計画的に漢字や計算・読書活動・学習の補充などを実施する。	80	A	新出漢字の練習、計算、学習活動の延長、特別活動などを実施してきた。目標値には達成できたが、さらに学習意欲の向上を目指した授業づくりも行ったいく。	年間計画において、基礎的な学習の時間を確保し、各学年で計画的に進めていく。	学力の向上などについての発信があるとよい。	B
		毎週、金曜日の放課後に各クラスにおいて数名の取り出し学習（教科学習の学習支援）を実施する。	【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。		C	令和4年度は小5及び中2の二学年が調査対象であったため、小4及び中1の結果はない。平均正答率は、目標値を下回っている。	業間活動において、定期的に基礎的な学習の反復などを実施する。放課後に、基礎学力定着を図るための学習の補完を行う。	今年度の取組が成果として表れることを期待する。	B
豊かな心の育成	「温かい関わりと思いやりを重視した指導」 ・人と関わる多様な活動の中で児童が安心できる環境を作る。 ・児童の心に寄り添う生活指導によっていじめや問題行動、学校不適応の早期発見を図る。	特別活動の「学級活動・たてわり班活動」において、課題解決を図るための合意形成を図ったり、意思決定したりする中で「話し合い」を活動の中心に置く活動を行う。	学校評価アンケートの「温かい関わりと思いやりの心が育っている」の項目について、肯定的な回答を70%以上。	75	B	目標値には達成できた。今年度、たてわり活動を30分の活動にしたことで、昨年以上に活動の中で関係性を深めることができた。	特別活動での話し合い活動を中心に、各教科でも課題解決を図るための合意形成を図ったり、意思決定をしたりする活動を増やしていく。	自分の考えと他の児童の考えの違いを理解できるようになるとよい。	B
		道徳の学習において、重点指導として「自立心や自律性」「生命を尊重する心」「他者を思いやる心」の価値項目について学期1回以上行う。	ふれあい月間の実施後調査（11月）において、いじめや生活指導関連において、肯定的な回答を60%以上。	46	C	学校教育全体の活動において育む力のため、個の見取りや課題解決への早期発見などを後期も進める。	道徳の学習において、ふれあい月間で全校共通の価値項目の指導を実施する。また、全校共通の重点指導項目を月1回実施する。	年間を通して、学校全体で取り組んでいくことが望ましい。	B
健やかな体の育成	「病気や怪我を減らすための健康増進・感染防止の意識向上」 ・「体を動かす楽しさ」「挑戦する楽しさ」「健康に生きる楽しさ」を感じさせる。 ・心身ともに健康で最後までやり抜く児童の育成を図る。	・3年生以上では、食や睡眠を主に「健康」に対する意識を高める保健の学習の工夫と改善を行う。 ・全校児童の理解啓発とする教育活動（ゲストティーチャー招聘）を行う。	学校評価アンケートの「健康を意識した生活習慣を送っている」の項目について、肯定的な回答を70%以上。	75	B	目標値には達成できた。健康に関する情報発信や学校全体で取り組む教育活動についてさらに工夫と改善を行っていく。	家庭との連携をさらに高めていくための取組を計画的に実施していく。研究部を中心に、家庭への啓発の仕方を検討し周知していく。	食育や運動等の取組は、子供たちが楽しそうに行っている。	B
		・全学年において体育学習の工夫と改善を行う。 ・全校児童が運動の楽しさを味わうための体育的活動の工夫をする。（学期1回実施）	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。	70.1	A	目標値は達成できている。総合評価C以上の割合は、男子では都や全国と比べ上回っている。女子は下回っている。	全校児童が運動の楽しさや体を動かす楽しさを味わえる活動の工夫と場の準備などを検討し、計画的に実施できるようにする。	今年度以上の取組ができるように検討していったほしい。	B
まちづくり学習の充実	「総合的な学習の時間を中心に学習を進め、各学年のねらいにそった学習活動」 学年末においては、まとめと報告する会を設け、自己の振り返りや今後のまちづくりについて考えていくことができるように計画的に進める。	学校だよりや学年からのお知らせ等で「まちづくり学習」の学習状況や取組について、学期に1回または月に1回程度、保護者に情報提供していく。	学校評価アンケートの「各学年の『まちづくり学習』について情報発信をしている。」の項目について、肯定的な回答を70%以上。	46	C	現在、Xを中心に保護者や地域に情報を発信している。各学年からも情報発信を行っている。保護者のお手伝い等も含め、今後も情報提供を積極的に行っていく。	Xで学校のエデュケーション活動を紹介していることを学校だよりや保護者連絡機能で周知する機会を増やしていく。	X等の配信を楽しみにしています。	B
		学年末の授業公開を全学年が「まちづくり学習」の報告・発表の授業とする。報告や発表を参観後、保護者や地域の方から感想や意見をいただく。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上。	50	C	生活科や総合的な学習の時間を中心に、課題設定や解決への見通しなどを持たせた学習活動になっているか。検証が必要である。	地域学習や校外学習に、授業のサポートして下さる保護者を今年度以上に増やしていく。事前の予定を保護者に知らせるなどしていく。	校外の活動を見ることがある。	B
	校裁量	校内研究「運動の楽しさを味わい、健康意識を高めていく おさななっ子チャレンジ」の研究主題を基に、「体育」「食育」「生活習慣」「体育的活動」の4つの分科会で、それぞれが課題の工夫と改善の授業や取組を行う。また、家庭との連携を図る。	校内研究の児童アンケートにおいて、「体育」「食育」「生活習慣」「体育的活動」に関する項目でそれぞれ肯定的な回答を70%以上。	85	A	食育については、低学年を中心に授業を行い、中学年以上は学習農園を活用して実際に野菜を育てるなどした。運動に親しむ取組は、体育的活動でマラソンや縄跳び・遊びの活動を行うことができた。	次年度は、体育の学習を中心とした授業改善を中心とした研究や研修を行っていく。	概ね目標を達成できている。次年度は、さらなる工夫と改善を期待する。	B

※ 到達度＝ 達成値／目標値